

米づくり情報（NO. 6）

令和5年7月20日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況（アメダス観測地：伊万里）

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
7月	1	24.8	25.8	28.4	29.0	22.0	23.3	97.6	111.0	15.6	1.9
	2	25.5	26.9	29.2	29.6	22.6	24.2	84.3	218.5	19.2	11.1
	3	26.1	28.3	30.0	30.8	23.1	26.3	59.0	31.5	23.5	8.0
	4	26.7	—	30.9	—	23.5	—	42.4	—	28.3	—
	5	27.2	—	31.6	—	23.9	—	39.1	—	32.3	—
	6	27.6	—	32.1	—	24.2	—	44.3	—	41.4	—

【7月1半旬～7月4半旬の気象概況】

- 平均気温は、平年と比較して1.0～2.2℃程度高く推移した。
- 降水量は、10日に線状降水帯が発生したことにより局地的な大雨となった。
- 日照時間は、平年の36%とかなり少ない。

2 生育状況（7月19日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	主稈出葉数 (L)	葉色 SPAD	概要
夢しずく 6/2 移植 東山代町脇野	本年値	83.0	314	10.7	39.4	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は、平年よりやや高い 莖数は、平年より少ない 主稈出葉数は平年よりやや少ない 葉色は平年より淡い
	平年値	79.5	403	11.3	41.7	
	平年比	104	78	-0.6	-2.3	
ヒノヒカリ 6/19 移植 松浦町桃川	本年値	44.7	184	9.1	41.9	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は、平年より低い 莖数は、平年より少ない 主稈出葉数は平年よりやや少ない 葉色は平年より淡い
	平年値	48.3	429	9.8	42.9	
	平年比	92	43	-0.7	-1.0	
たんぼの夢 6/17 移植 松浦町桃川	本年値	42.7	154	9.0	44.0	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は、平年より並 莖数は、平年より少ない 主稈出葉数は平年より少ない 葉色は、平年よりやや淡い
	平年値	44.0	401	9.7	44.8	
	平年比	97	38	-0.7	-0.8	

（耕種概要）

- ※ 夢しずくの耕種概要は稲作情報 No.1、ヒノヒカリ・たんぼの夢の耕種概要は稲作情報 No.3 を参照。
- ※ 莖数の本年値（ヒノヒカリ、たんぼの夢）については、栽植密度が平年より小さく、移植後の日照不足、断続的な降雨による深水、ジャンボタニシの食害等により、平年比がかなり小さい。

(参考：平坦部 佐賀県農業試験研究センター 米づくり情報第3号より抜粋)

本年産水稻の生育状況 (7月18日)

移植日	項目 品種	年次	草丈	茎数	葉齢	葉色	概況 (平年と比較して)
			cm	本/m ²	L	SPAD	
6月19日	夢しずく	本年	46.9	291	9.3	38.9	[気象] 7月10日～17日まで ◆平均気温…平年より1.4℃高い ◆日照時間…長い(平年比 108%) ◆降水量…多い(平年比 241%) [生育] ◆草丈 「ヒノヒカリ」は低く、その他の品種ではやや低い ◆茎数 全品種少ない。 ◆葉齢 「夢しずく」は平年並み、「ヒノヒカリ」及び「さがびより」は遅く、「ヒヨクモチ」は進んでいる。 ◆葉色 (SPAD) 「夢しずく」は高く、「ヒノヒカリ」はやや低く、「さがびより」「ヒヨクモチ」は低い。
		平年	48.7	348	9.4	37.5	
		平年比(差)	96	84	-0.1	+1.4	
	ヒノヒカリ	本年	39.9	372	8.6	40.5	
平年		43.3	476	9.5	40.8		
平年比(差)		92	78	-0.9	-0.3		
6月20日	さがびより	本年	39.9	281	8.8	36.7	
		平年	41.6	372	9.5	41.3	
		平年比(差)	96	76	-0.7	-4.6	
	ヒヨクモチ	本年	38.0	573	10.4	38.7	
平年		39.2	630	9.9	41.3		
平年比(差)		97	91	+0.5	-2.6		
留意点	○ 茎数の少ない圃場では浅水管理を行い、分けつ促進に努める。 ○ 必要な茎数が確保できた圃場においては、中干しを実施する(※令和5年産は全体的に茎数は不足気味)。「夢しずく」は7月第5～第6半旬に幼穂形成期となるため、それまでに中干しを終了する。 ○ トピロウカ及びコブノメイガの発生に注意する。						

3 今後の管理

1) 山間早植え水稻 (5月上中旬移植)

- ・ 穂孕期を迎えている。
- ・ 穂孕期から穂揃期にかけては、イネの用水要求度が高い時期であるため水がきれないように湛水状態を保つ。
- ・ 茎数が多く取れた圃場や葉色が濃い圃場は、「いもち病」などの病気が発生しやすくなるため注意深く観察し、病斑が確認された場合は速やかに防除を実施する。

2) 普通期水稻「夢しずく」

【6月上旬移植】

- ・ すでに幼穂形成期を迎えている。(6月2日移植の圃場で幼穂長1mm ※7/19時点)
- ・ 幼穂形成始期(幼穂長1ミリ)を迎えた圃場では、下の表を参照し穂肥を施用する。穂肥は、湛水状態で施用し最低4日間は止水し、落水しない。

幼穂形成始期の草丈(cm)	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量 (kg / 10 a)	
	群 落	SPAD-502	出穂前日数	幼 穂 長	窒素成分量	BB602
	3.0以下	34以下	22~20日前	1 mm	3.0	18 kg
73cm以下	3.0~3.5	38以下	20~18日前	2 mm	3.0	18 kg
	3.5~3.8 3.8以上	38~39 40以上	15~14日前 晩限は止葉抽出終了まで	10~15mm	1.5~2.0 1.0以下	10~12kg 6 kg
73~79cm	3.0~3.5 3.5~3.8 3.8以上	38以下 38~39 40以上	20~18日前 15~14日前	2 mm 10~15mm	1.5~2.0 1.0	10~12kg 6 kg
80cm以上	原則として施用しない					

※ 草丈は幼穂の伸長程度より幼穂形成期（幼穂長1mm）を基点に、前後1日当たり1cm増減する。

※ 止葉が抽出し終わった後は施用しない。

※BB602の施用量は栽培ごよみに準じている。

【穂肥診断の方法】

- ①幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ②葉色（群落・SPAD値）を測る。
- ③上記①②の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
- ④施用量が確認出来たら、記載された施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。

【6月中旬移植】

- ・ 早いところではまもなく幼穂形成始期を迎え、穂肥施用時期となるため、上の表を参照し穂肥の施用を行う。
- ・ 遅くとも移植後40日頃までには中干しは終了し、間断灌水に移行する。

3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

- ・ 有効茎（1株当たり20本程度）が確保できた圃場から順次中干しに移行する。また、分げつが少ない圃場は浅水管理とし、分げつ促進に努める。
- ・ ガスわき対策として移植後15日、25日頃は夜干しなどを行い、根の活力を高める。ただし、用水確保が難しい地域では落水せずに湛水状態を保つようにする。
- ・ 移植後に湛水状態が保てず、除草剤処理後の水管理が徹底できなかった圃場では、ヒエ、コナギやホタルイ等の雑草の発生が散見される。速やかに、中後期除草剤等による防除を徹底する。

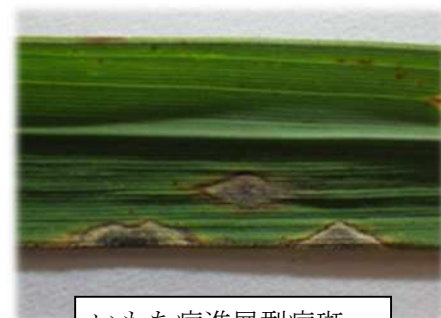
※ クリンチャーEWはノビエ6葉期、クリンチャーバスMEはノビエ5葉期までの登録となっているので遅れないように防除を実施する。

4) 共通

○病害虫防除

(いもち病)

- 7月13日までのBLASTAM情報（気象条件のみによって葉いもちの発生を予測するシステム）によると、伊万里では6月8日、11日に葉いもちの感染好適条件が観測されている（好適条件が観測された1週間後に初発生や病斑数の急激な増加が予想される）。今後発生状況に注意し、進展型病斑が確認された圃場では、オリブライト粒剤等で速やかに防除を行う。
- 圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」の温床になるためすみやかに除去する。



いもち病進展型病斑

(ウンカ類)

- 6/30～7/13にかけてトビイロウンカの飛来が確認されている（表1）。この飛来波の今後の発生予測は図1のとおりである。
- 今後の飛来状況および気象条件により、発生予測図は随時更新される。
- 防除時期については、今後の飛来状況や圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量が異なるため、注意深く圃場を観察する（ウンカは稲の株元に定着します）。

【情報田ウンカ類調査結果（25株あたり）】

（調査日：7/20）

品種	地域	移植日	トビイロウンカ		セジロウンカ		ヒメトビウンカ	
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫
夢しずく	東山代	6/2	0	0	0	3	0	1
ヒノヒカリ	松浦	6/19	0	0	0	10	1	1

【ウンカ類の見分け方】









		トビイロウンカ	セジロウンカ	ヒメトビウンカ
幼虫	成虫			
	若齢			
	中齢～老齢			

表1 イネウンカ類のトラップでの捕獲状況(2023年7月18日)

月	日	トビイロウンカ					セジロウンカ				
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県		
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市
		ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	21日	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0
	22日	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
	23日	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
	24日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	25日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	26日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	27日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	28日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	29日	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
	30日	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
7月	1日	0	12	0	0	0	0	70	1	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	58	0	0	0
	3日	0	15	0	0	0	0	75	0	0	0
	4日	0	4	0	0	0	0	13	19	0	0
	5日	0	19	0	0	0	1	23	31	0	0
	6日	0	3	0	0	0	0	43	0	2	0
	7日	0	4	0	0	0	2	6	0	4	0
	8日	0	14	0	0	0	0	14	1	0	0
	9日	0	3	0	0	0	1	16	6	1	0
	10日	0	0	1	1	0	0	15		0	0
	11日		2		0	0		10		0	0
	12日		2					3			
	13日		4					3			

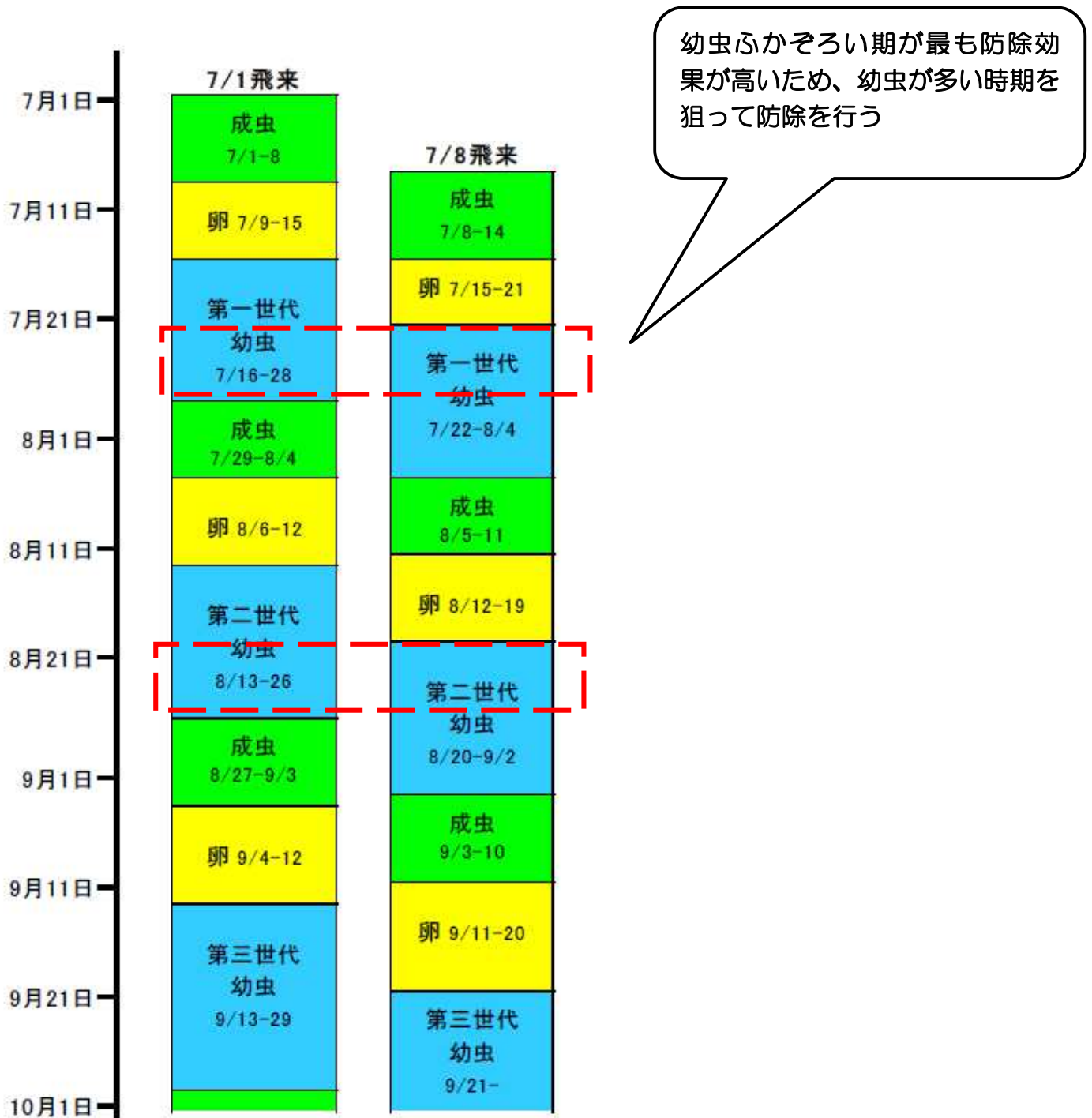


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測(第1版、2023年7月18日作成)

1. 6月30日～7月3日頃(図では7月1日)、7月7日～9日(図では7月8日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月18日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

令和5年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：伊万里）

西松浦農業振興センター

